

戦時文庫の成り立ち(1)

文部省推薦図書と思想統制

1913（大正2）年、文部省令第22号「通俗図書認定規程」より、すでに国定となっていた教科書以外の図書においても、国家による認定が始まりました。

その後、1930（昭和5）年に「図書推薦規程」が公布されます。以前より文部省をはじめとする各文化団体より、優良図書の認定や推薦は行われていましたが、出版物が激増した背景もあり、より積極的な国家基準による推薦が行われるようになりました。

国家権力による図書の認定や優良図書の推薦は国民の思想を統制し、思想善導へと導くこととなります。

社会教育ニ裨益アリト認メラルル図書ニシテ
特ニ優良ナルモノハ本命ニヨリ之ヲ推薦ス
（「図書推薦規程」より）

しかし、国民に対する思想統制が厳しい反面、この時代は国民の読書意欲が飛躍的に向上した時代であるとも言われています。

戦時文庫の成り立ち(2)

貸出文庫の成立

1933（昭和8）年に改正された「図書館令」により、国は全国に「貸出文庫」を設置しました。これは、推薦図書を普及し、国民の戦意を高めることを目的としています。

当時神奈川県では、未だ県立図書館が誕生していなかったため、県立金沢文庫が事業を実施することとなりました。

1940（昭和15）年7月1日に、第1回の廻付を開始し、鎌倉市立図書館、横浜市立金沢小学校図書室、私立鵜沼図書館（藤沢町）、藤沢町立藤沢第二小学校の4か所の巡回を皮切りに事業がスタートしています。

貸出文庫では1か所につき、最大50冊が柳行李（柳などで編んだ入れ物）に詰められて廻付されました。

図書は4つの分類〈時局（赤）・産業（青）・教養（黄）・趣味娯楽（白）〉に分けられ、それぞれに色テープを貼ることで見分けることができました。



貸出文庫に使用された柳行李

戦時文庫の成り立ち(3)

貸出文庫の繁栄と衰退

事業の開始当初は、青少年層を主たる対象として、選書等を行っていましたが、政治や経済といった硬い内容の図書よりも、文芸や娯楽書などが頻繁に利用されたため、読みやすい内容の図書の割合が増えていきました。

1940（昭和15）年7月にはじまった貸出文庫は1942～3（昭和17～18）年に最盛期を迎えました。閲覧人数は、200人はざらであり、400人を突破しているところもあったと記録されています。

1942（昭和17）年5月現在には、廻付先は66か所となり、激務で倒れる職員も出るほどでした。

しかし、1944（昭和19）年、戦況が厳しくなると、金沢文庫の担当職員の出征も相次ぎ、いよいよ活動することが不可能な状態にまで追い込まれ、そのまま終戦を迎えることとなりました。

戦時文庫の成り立ち(4)

貸出文庫のその後 県立図書館のコレクションへ

敗戦後、軍国主義的な出版物の没収指令が占領軍よりくだり、貸出文庫の内、相当数の図書が接收対象となりました。金沢文庫でも、「軍国主義的図書の整理処分」（『金沢文庫復興30年誌』より）をはじめることになり、貸出文庫にあった図書は永遠に闇へと葬られたかに思われました。

しかし貸出文庫の一部は、当時の文庫職員によってかくまわれ、20数年を経た1969（昭和44）年、金沢文庫展示室内の須弥壇（しゅみだん：仏像を安置する台座）の下から、発見されることになりました。

これらの資料群は、県の教育センター図書室で一時的に保管することになりましたが、1979（昭和54）年、この貴重な資料を全て一括して保存・活用するにふさわしい施設として、県立図書館で受け入れすることとなりました。

こうして、県立図書館の特別コレクション「戦時文庫」が誕生したのです。

戦時文庫の成り立ち(5)

戦時文庫の構成

当館で「戦時文庫」として所蔵する資料は、1570点を数えます。多くは、歴史・社会関係の人文資料、文学などから構成されています。

貸出文庫の最終的な冊数は6,333冊（タイトル数は1,800程度）という記録があります。

「戦時文庫」として受け入れられたもの以外の図書の方ですが、多くはGHQ（連合軍最高司令官総司令部）の命により、接收されたと考えられます。

分類	一般書	児童書	計
紙芝居	0	6	6
0門 総記	76	0	76
1門 哲学宗教	95	16	111
2門 歴史地誌	294	78	372
3門 社会科学	321	35	356
4門 自然科学	14	8	22
5門 工学	71	24	95
6門 産業	46	2	48
7門 芸術	21	5	26
8門 語学	3	1	4
9門 文学	353	101	454
計	1294	276	1570

引用「戦時文庫目録稿」より